

見る人それぞれに思い深まる

Shantyさんの描き出す世界

ペンネームはサンスクリット語で平和の意味。

友人である志摩のアーティストが名付けたという。本名ではなく「シャンティー」として活動するのは、

自身より、描く作品を知つてもらいたいという思いから。

シャンティーさんの作品集「絵とおはなし」の創作の世界に惹き込まれる。

幼少期の絵本が原点 見る人に寄り添うイラスト

「絵とおはなし」シリーズで描くイラストは、創作であり、それでいて現実のようでもある。見る人はそのまま寄り添う力を持ったイラストだ。「好きに描いた作品ですが、多くの人に共感してもらえるのはうれしいです。同じイラストであっても、それだけに見る印象や感じ方が違うよ」と話す。

幼少期の愛読書『くまのブーさん』やトーベ・ヤンソンの『ムーミン』が、今も大切に本棚に並ぶ。これらはシャンティーさんの宝物。表紙や挿絵の水彩画とペン画に、ワクワクしてページをめくつた。小さい頃から描れぞの思い出や経験をそこに重ね、オリジナルの情景が完成する。著者

高校卒業後、一度は事務職として就職するが、絵の仕事を諦められずにいた。そして本づくりの世界に憧れ三重のタウン誌『月刊Simple』を発行する伊勢の出版

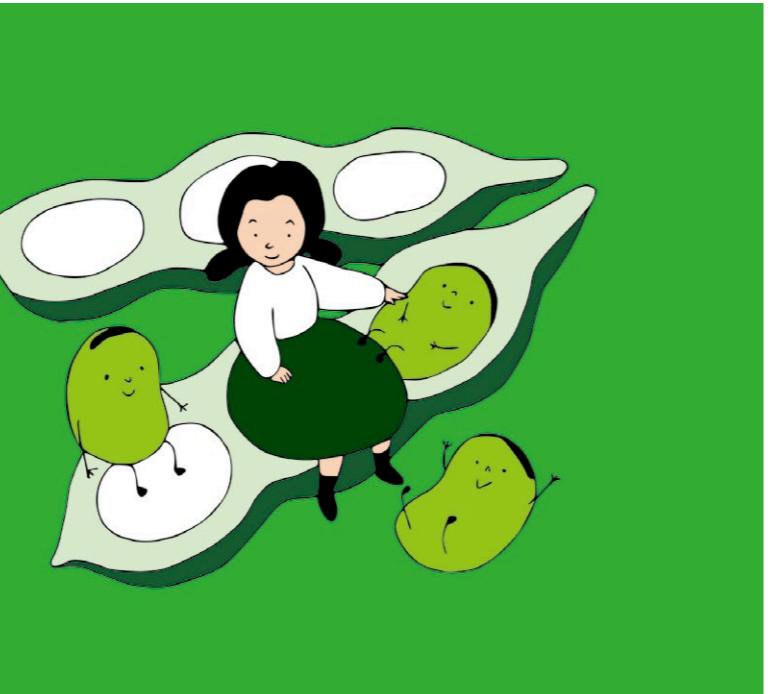
社に入社。制作部門のスタッフとして携わり、約2年間働いたのち、退職後結婚。伊勢から志摩へと移り住む。辞めた後も表紙のイラストを担当し、そのことをきっかけに、フリーランスとして活動する。

「わたしの場合は出版でしたが、理想に近いところへ、自分から行動に移すのが必要なんでしょうね」。情報誌や学習本などの表紙や挿絵、マップや記事、キャラクターをあしらった看板やショッピング袋、てぬぐいなど、多くの場面にイラストが使われている。消しゴムハンコをベース

1 自身の作品を描くときは「手を動かしていると自然と絵が生まれる」という感覚に近いという 2 マップづくりは現場での綿密な取材が欠かせない。「朝熊ヶ岳参詣マップ」と賀島周辺の見所が詳細に描かれる「かしこじまっぷ」 3 帽子をかぶり、二胡を背負う女の子がシャンティーさん。SNSなどのアイコンに使われる

とおはなし」の作品だ。自宅で過ごす夜に浮かんだ発想にペンを走らせ、出来上がってくる線画にパソコンで色を着け、その絵を見ながら「おはなし」を書くというスタイルで、動物や子どもを題材に500点ほどを生み出した。

今年の夏、それの中から40点を並べた企画展が、志摩市大王町の大王美術ギャラリーで開かれていたが、緊急事態宣言発令により2週間以上の会期を残して中止となつた。作品はA2サイズで、それぞれに立体のオブジェが添えられ、展示ならではの工夫があり、訪問を楽しみにしてきた人も多く、企画展は令和4年度に再度設定される予定だそう。



絵とおはなし「そらまめ」

「そらまめをむくと、その中のきれいな大きな実やふわふわのベッドみたいな鞘（さや）の中を見て見て毎回感動する」というシャンティーさん



3

2

1



イラストレーター
シャンティー

志摩市阿児町立神在住、本名・大西秀子。出版社勤務を経て1990年からフリーで活動。書籍のイラストや看板の口ゴ、観光マップなどを手掛ける。趣味は二胡演奏。牡羊座・O型。

information
Shanty シャンティー
<https://www.rararashanty.com>
ai@rararashanty.com



絵とおはなし「この世界」

たとえばこの世界がまったくの誰かのつくりものだったとしたらって考えたことある？わたしはあるわ。でも、たしかなことはわたしはその手には乗らないってことよ（笑）



展示では立体で見る楽しさも表現する。緑のオブジェは志摩に暮らすシャンティーさんには馴染みの海藻・ワカメ

とおはなし」の変化と今後の活動

「絵とおはなし」シリーズの表紙や、ブログなどウェブのアイコンに描かれる女の子は自分自身。「インドア派なんんですけど、空想ではいつも歩いているんですよね」。山から続く道を進み、帽子をかぶり二胡を背負っているが、シャンティーさんは二胡奏者でもある。二胡を弾いて18年になり、ユニット「ルナ」で活

動。最初は楽器が弾ければという軽い気持ちではじめたそうだが、音楽家・劍山啓介さんの指導を受け、もともと人前に出るのが苦手だったことも克服し、ホテルやイベントなど伊勢志摩各地で演奏をする。多いときは1日に3ステージをこなすほどになり、当時は夫の農業も手伝い、そして多忙なイラストの仕事と、スケジュールを管理し続けた。音楽関係の仲間もでき、視野も広がつたそうだ。

オリジナルで描く作品にはおとぎ話が多く、それには志摩の環境が影響しているという。「住むなら都会よりも田舎がいいと思ってたし、志摩ってそこにあるだけで癒されます。伊勢からこっちに来て、生活が違ったし、新鮮なことが多く、人生観が変わりました。自営業の人も多くて刺激されたり、自然に触れ合うことが自分には合っていたんですね」。これからはより一層自分の作品づくりに時間を割いていきたいという。シルクスクリーンや額装をする広いスペース、そんな場所も見つけたいと考えるシャンティーさん。自身の伝えたい思いを、これからのイラストで表現する。